

# まちの史跡めぐり

165

町文化財専門委員 石龍 豊至夫

## 眼科医岡正節と長崎出島(2)

安政二年(一八五三)から六年(一八五九)にかけて、長崎には幕府が設けた学校、長崎海軍伝習所が置かれていました。勝海舟がここで学んだことはよく知られています。明治になって活躍する根本武雄、五代友厚も伝習所で学んでいます。

ペリール来航(一八五三)をきっかけに、日本は開国へと歩みを進めます。幕府はオランダに蒸気船二隻(威臨丸と朝陽丸)を注文し、オランダ政府はスチームビンク号(觀光丸)を寄贈します。しかし、日本にはそれを動かす航海技術がなく、オランダはそ

の訓練を受け持つ教師団をも派遣しました。オランダ人を教師に操縦・測量・砲術(その他、数学・化学などの自然科学を学ぶ、海軍士官養成の学校が海軍伝習所です。

幕府はもちろん幕臣を伝習生として派遣しますが、諸藩からも学生を受け入れました(その後の歴史を考えると、これは幕府の英断だと思えます)。勝海舟の記録によると、幕臣が五人、佐賀藩四人、福岡藩は次に多い二十八人です。勝海舟がもたらした二〇人を記録した資料(津藩柳橋悦也)もあり、それを合

わせると三十八人となります。安政四年には長崎に医学伝習所を設置し、ボンベが松本良順(幕府医官、後に男爵)らに講義を行いました。これが長崎大学の源流となりました。

須患の眼科医岡正節(後に松節)が、長崎に派遣されたのは安政元年。また医学伝習所は設立されていません。それで、正節は出島にたつたひとりのオランダ人医師ファン・デン・ブルックを訪ねる必要があったのでしょう。安政二年に出島に出入りした日本人を記録した「オランダ通詞会所記録 安政二年通記帳」から岡正節に

関する記事拾ってみましょう。オランダ通詞とはオランダ語の通訳で、代々長崎に住んでいます。彼らはまた医師や科学者でもあり、オランダ語の本の翻訳を行なったりしました。出島に出入りする許可を受けた人物の名は、長崎奉行所からオランダ通詞に通知されていました。

一月二十九日 通詞の管理職に当たる御年番所から出島担当の通詞へ「筑前医師岡正節」が出島に出入りしたい旨願いが出ているが、差し支えないかどうか、(オランダ人)に確かめておくよう求められる。

二月一日 岡正節の出島出入りに関する返答を御年番所に提出。

二月六日 福岡藩の河野禎造がオランダ人に「医学問合」が済んだので帰国すること、岡正節が「外科阿蘭陀人」(ファン・デン・ブルック)を指すに「療治方尋問」のため出島に出入りすることを、福岡藩から通知。河野禎造から岡正節への交代である。

二月八日 岡正節が明九日から三十日間出島出入りを許可されたことを、カピタン(オランダ商館長)に通知。

三月九日 岡正節が明十日から三十度(二十日)と同じだろ(う)出島に出入りすることをカピタンに知らせ相談。

五月二十七日 蒸気船製造が許可されたので、河野禎

造が出島に出入りを願っていること、岡正節が帰国することを通知される。(長崎に継続して滞在したのではなく、河野禎造と岡正節は入れ替わりに、福岡への帰国と長崎への出張を繰り返していることがわかる。)

六月四日 河野禎造が明後六日から三十度出島に出入りすることが許可された旨、カピタンに通知。

十一月一日 岡正節が外科阿蘭陀人に質問のため、出島に出入りすることを許可される。

十一月二十一日 岡正節が明後二十三日から三十度、出島に出入りすることが許可され、通知される。

十二月二十四日 福岡藩主黒田長海が「阿蘭陀人外科」に贈り物をしたいと願いで許可される。贈り物は「サンショウ魚一桶、郡内鯛一疋」である。「郡内」とは甲斐国郡留部(山梨県郡留市な

ど)のことで、絹織物(郡内絹)が特産品だった。

安政二年、出島にいたオランダ人は六人です。商館長(カピタン)がドンケル・クルチュウス。医官がファン・デン・ブルック。他四人は商館員。また、オランダ船は季節風を利用して、旧暦の六月・七月にバタバ(インドネシアのジャカルタ)から長崎に來航し、九月に長崎を出航しました。福岡藩と佐賀藩は一年交代で長崎警備を担当し、担当年には藩主が長崎を視察します。この年は福岡藩が当番の年で、福岡藩士が警備のために派遣されていました(千人番所と言われます)。

十一代藩主黒田長海はファン・デン・ブルックと親しく、安政二年には長崎を訪れて、折柄寄港中のオランダ船に乗船したり、河野禎造・岡正節以外にも藩士をファン・デン・ブルックのもとに送り込んでいます。以下はその関係記事を拾いました。



須恵町にある岡正節(後に松節)の墓碑

六月八日 長崎にオランダ船二艘が姿をあらわし、発見した合図の石火矢(天砲)が響き渡った。その内の蒸気船一艘がスチームビンク号である。

六月十八日 さらにもう一艘のオランダ船が來航。二十日にはさらに一艘が來航した(いずれも「商売船」)。

六月三十日 黒田長海家来七人をオランダ船(蒸気船と商売船)に乗船させ、船の精巧な造りを見学させたいと願いだした。

七月三日 福岡藩士七人とその供などの出島出入り、またその人数に船大工などを加えた二十人がオランダ船を訪問することが許される。

七月九日 黒田長海、オランダ両船(商売船のこと)に乗船。船長室でお茶・煙草・お菓子・銘酒・蜜漬けを饗される。翌十日には蒸気船二艘に乗船の予定だったが、九日に外国船一艘があらわれて延期。

七月十日 イギリス蒸気船、長崎に入港。

七月十六日 別のイギリス蒸気船が長崎に來る。水・石炭の補給を願う。二十三日、二十七日、二十九日もイギリス船がそれぞれ來港。この年はこの後もフランス船二艘の來港など、記事が続く。

八月十九日 黒田長海、オランダ船に乗船。

黒田長海は蘭船大名(オランダかぶれの大名)と言われた人で、オランダ人とも交際し、オランダの船を実際に見学しました。三年後の安政五年十月、日の丸を翻した幕府の蒸気船二艘が博多湾に入りました。幕府がオランダから購入した威臨丸と朝陽丸で、威臨丸船長は勝海舟です(太平洋横断をする前の出来事です)。オランダから派遣された海軍伝習所の教官も乗っかっていて、黒田長海は箱崎で西洋料理でもてなしました。